

<2016年9月月例会報告>

日本初の女子A級レフリー世界へ羽ばたく
ーリオデジャネイロ・オリンピック ラグビー競技報告ー

川崎 桜子 (日本ラグビーフットボール協会公認女子A級レフリー/榊山小電機製作所)

【日時】2016年9月21日(水) 19:00~21:00

【会場】筑波大学附属高校 3F 会議室 (東京都文京区大塚 1-9-1)

【テーマ】日本初の女子A級レフリー世界へ羽ばたく

ーリオデジャネイロ・オリンピック ラグビー競技報告ー

【演者】川崎 桜子 (日本ラグビーフットボール協会公認女子A級レフリー/榊山小電機製作所)

【コーディネーター】嶋崎雅規 (国際武道大学)

【参加者(会員・メンバー)9名】

安藤裕一 (GMSS ヒューマンラボ)、春日大樹 (筑波大学大学院)、岸卓巨 (日本スポーツ振興センター)、小池靖 (サッカースポーツ少年団・さいたま市)、小山基彰 (中高生部活応援マガジン・ヒーローインタビュー)、嶋崎雅規 (国際武道大学)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、松下徹 (公認会計士・税理士)、吉原尊男

【参加者(未会員)6名】

川崎桜子 (山小電機製作所)、中里孝男 (玉川学園高等部)、中田一朗 ((株)クエスト)、長尾樹 ((株)T.C.PLACE)、国島栄市 (ビバ!サッカー研究会)、鈴木亨 (筑波大学附属高校)

<目次>

1. 演者紹介
2. 自己紹介
3. セブンズについて
4. オリンピック参加レフリーの選出について
5. リオで見たこと、感じたこと

1. 演者紹介

川崎 桜子 (かわさき さくらこ)

玉川学園高等部ラグビー部から帝京大学に進学、女子選手としてプレーするも怪我により断念、岩出監督の勧めもあってレフリーに転身。今年度、日本初の女子 A 級レフリーとして公認され、各種国際大会に派遣される。8 月にはリオデジャネイロ・オリンピックにマッチオフィシャルとして参加。現在、(株)山小電機製作所に勤務し、OL 生活を送りながらレフリー活動をしている。ちなみに、(株)山小電機製作所の社長・小湊清光氏は元トップレフリー。中小企業ができる社会貢献活動として川崎さんを雇用、レフリー活動を支援している。

2. 自己紹介

1993 年生まれ、現在 22 歳。社会人 1 年目。神奈川県川崎市出身。玉川学園に小学校から高校まで通う。高校時代はラグビー部のマネージャーとして 3 年間を過ごす。そのまま玉川大学に進学せず、帝京大学を受験。高 2 の時、帝京大学 vs 早稲田大学の試合を観戦して選手のジャージ姿にあこがれ、それから帝京大学を応援するようになる。大学に進学する時、日本一の帝京大学でラグビーにかかわりたいと思い、受験する。医療技術学部に進学して、アスレチックトレーナーの勉強をする。現在の所属は、(株)山小電機製作所。

大学 4 年の時、小湊社長に声をかけていただいて就職しました。小湊社長も、もともとレフリーをされていました。社会人になるとレフリー活動と社業を両立するのが難しくなります。私の場合は、レフリー活動で外に出るときには出張扱いにさせていただいて支援を受けている。現在、1 年間のうち約 3 か月は海外で活動させていただいています。その 3 か月間をすべて出張扱いにさせていただいているので、私としては幸せだと思っています。また、サポートさせていただいている分、自分のできることはしっかりやっとうと気持ちでいます。

日本ラグビーフットボール協会女子レフリーアカデミー 2 期生。アカデミーでは、毎月 2 日間、土日を使って泊りがけで研修を受ける。JISS の施設を利用して、フィットネストレーニングやレフリー用の英会話、メンタルトレーニングなどを行う。年に 1 度、サッカー協会のレフリーアカデミー生とも交流を図る。

今年 8 月に日本協会公認女子 A 級レフリーとなる。今まで女子のレフリーは B 級までだったので、国内の規定では国際試合が担当できませんでした。ワールド・ラグビー (ラグビーの国際統括団体) からの要請もあり、A 級レフリーが誕生。現在国内には、私と高橋真弓さんという 2 人の A 級レフリーがいます。

私の初めての国際大会は、アムステルダムセブンズ 2014 で、レフリーを初めて 2 年目で海外に出させていただきました。初めての海外での大会に参加した時には、英語もしゃべれず、コミュニケーションもとれず、ただただ周りのレフリーについて行って笛を吹いてという形で、何か楽しいことはあったと聞かれても全く覚えていないほど余裕のない大会でした。このアムステルダムセブンズの後、2 か月ごとに海外の大会に出させていただき、だんだんと海外の大会にも慣れることができ、今では自分からほかのレフリーに話しかけに行ったり、あとはミーティングで質問ができるようになりました。

私がラグビーと出会った経緯ですが、小学校 5 年の時に 2 歳上の兄が玉川学園中等部のラグビー部に入ります。その兄の応援をするようになって、どんどんラグビーというスポーツに惹かれていきました。高校時代は 3 年間玉川学園でマネージャーをさせていただき、高校 3 年生の時に顧問の中里先生から「マネージャーの中で一番体が大きいから、女子ラグビーやってみたら」と言われ、自分自身もプレーをし始めました。普段の練習ではマネージャーをやっている、土日になると中等部の練習に参加したり、試合に出させていただいたりしました。その時にはラグビーが好きになっていたし、もっとうまくなりたいという気持ちがあったので、大学に進学する際に岩出監督から声をかけていただいて、帝京大学ラグビー部初の女子選手として入部しました。入学してから約 1 年間は、男子選手

と一緒に練習し、コンタクトも彼らの40%くらいの力でやらせていただいて、1年間毎日のように泣きながら活動しました。2年生になって、外部の女子の試合に出させていただいたときに肩鎖関節脱臼をしてしまい、リハビリがそこから約4か月くらい続きました。その4か月の間に、いろいろな不安とか後悔などが自分の中に出てきて、このままここでプレーしていいのかという不安と戦うようになりました。それを見ていた岩出監督から「ラグビーに関わるには他のポジションもあるよ」とレフリーを勧められ、レフリーに転向しました。

ここでちょっとだけアジアにおける日本の女子ラグビーについてご説明させていただきます。競技人口は、強豪国のニュージーランドやオーストラリアに比べてとても少ないのが現状です。全国で2,000人ほどになります。女子サッカーだと、もっともっと数も多かったり、活動する場所も多いと思うのですが、女子ラグビーでは、高校生だと男子の部員に交じって一人二人活動していたり、大学では日本体育大学、立正大学、流通経済大学でチームが作れるだけで、他の大学生は、他の大学のチームやクラブチームに入って活動しています。国内の大会も、まず15人制の大会は1年に2大会あるかないかです。7人制の大会は、オリンピックのこともあって増えてきましたが、それでも年に5大会ぐらいです。サッカーなどに比べると恵まれない環境の中で選手たちは活動しています。選手は少ないのですが、女子レフリーは国内で30名ほどいます。年齢も18歳から56歳くらいまでと幅広い年代の方がいます。みなさん主婦だったり、会社員で土日にレフリー活動されていたり、あとは学生でチームに学生レフリーという形で所属している方もいます。数は少ないですが、ワールドラグビーからは、技術面も体力面もあとは生活面も非常に高い評価をいただいています。

3. セブンズについて

日本で一般的に知られているのは15人制のラグビーです。ただ、最近ではオリンピックもあって「セブンズ」という名前をよく聞くようになりました。

1チーム7人ずつで行い、時間は7分ハーフと短いですが、グラウンドは15人制と同じなので、選手もレフリーも走る量は多くなる。選手もレフリーも、大会だと1日3試合行う。ルールは15人制とほぼ同じ。セブンズは、1883年にスコットランドで発祥した。仲間割れをしてしまったクラブ（メルローズ）が、人数が集まらず試合ができなかったため、7人で行う「セブンズ」を考案したといわれている。1973年に初めて国際大会が開催される。スコットランドラグビー協会の100周年を記念して、初めて国際大会が開かれた。セブンズは古くからあったが、世界に広まったのは最近のこと。主な国際大会は、ワールド・セブンズ・シリーズ。これは男女ともある。それからオリンピック。これは2016年の大会から正式競技になった。あとは、セブンズワールドカップ。有名なアムステルダムセブンズなどもある。セブンズの大会の特徴は、観客が楽しめるような運営になっていること。

右の写真は、香港セブンズの様子です。みなさんそれぞれに仮装をされていたり、自分の国ではないチームも応援する雰囲気があります。本当にお祭りのような、みんなでお酒を飲んで、みんなで歌ってというような楽しい雰囲気の大会です。



以下は、ナイジェル・スターマー・スミスの書いた「SEVENSの魅力」の一部です。

まとめると、15人制の強豪国もそうでない国も楽しめる。そして、予想を裏切る逆転劇が多くて、予想ができない。15人制に親しんだ人も、初めてラグビーを見る人も楽しめる。セブンズには、そういった面があります。

SEVENSの魅力

この7人制国際大会は疑いなく最も壮観、魅惑的で、世界で最もよく組織されたラグビー大会であり、どこでも見られるセブンズ・ラグビーの最高水準を一貫して生み出してきた。

私が最初に観戦した際にオーストラリア人、ニュージーランド人、フィジー人、そしてイギリス人選手の上質のプレーを見たことは驚きではなかったが、これまでラグビーがプレーされていることを私が知りもしなかった国々によって産み出される驚くほどに質の高いプレーには圧倒された。韓国および西サモアはあらゆる点で日本およびトンガに劣っていなかった。インドネシア、タイ、シンガポールは純然たる体の大きさや厚さに欠けていることで克服できないハンディキャップを負っていたが、互いに対抗して幅広いランとハンドリングの技術を示し、これらは無条件の称賛に値した。…この競技の将来は前途洋々である。

香港大会の週には、数日間にわたって24カ国の代表が混ざることができ、この大規模な知識の交流は新興国に対して長期的には有益なことづくめである。…この偉大な大会の強みは、開幕日に世界で最も有名な選手達と、ラグビーがマイナースポーツである国から来た相手がピッチを共にする点にある。…香港セブンズのような大会が続いている間は、ラグビーの責任者達は、この競技が世界中の100を超える国々で繁栄し続けることを確信できるだろう。

Nigel starmer smith -British Rugby Player and journalist

これがオリンピック種目として選ばれた理由なのかなって思います。リオのオリンピックが開催される際に、新しい競技を選ぶ基準としてIOCから、

1. 競技運営のコンパクト化
2. 五輪における男女共同参画
3. 大国だけでなく様々な国・地域における「真の国際化」

という3つのコンセプトが示されました。セブンズはこの3つすべてに当てはまるものになっています。運営のコンパクト化という部分では、15人制に比べて試合時間も短く、1日でいろいろな国の試合が見られるということ。五輪における男女共同参画という部分も、女子ラグビーもセブンズは世界で広く行われていて、男子に劣らず見ていただけるといふ部分で当てはまると思います。3つ目のことも、ラグビーの特徴であるいろんな特徴のある人が誰でも楽しめるという部分が当てはまるのかなと思います。こうした3つの点が当てはまって、2009年に正式にオリンピック競技として認められました。(7人制ラグビー男子で、フィジーはオリンピック史上初の金メダルを獲得しました：報告書作成者注)

オリンピック出場国は、セブンズシリーズ上位4か国に加えて、各大陸連盟の予選を勝ち抜いた国、男子はモナコ、女子はダブリンで行われた世界最終予選の勝者、そして開催国のブラジルを含めた12か国がオリンピックに出場することになりました。日本は男女ともアジア予選で優勝して出場が決まりました。右の写真が女子日本代表のメンバーです。





左の写真は、男子の代表がベスト4を決めた時の写真です。やはり、メダルをかけた戦いできたということは、日本のラグビーにとって大きなことだと思います。初日にニュージーランドに勝ったということは、ラグビーを知っている方なら信じられないほど、去年ワールドカップで南アフリカに勝ったのと同じぐらいの衝撃的なものでした。男子も女子もそうですが、このオリンピックに向けて4年間、本当に涙も枯れるくらいきつい練習をしてきたと聞いています。女子の場合は、毎朝5時に起きて、砂浜をひたすら走らされて、その

後にコンタクト練習も砂浜でして、そういう過酷な合宿を何回も何回も重ねて、このオリンピックに挑んできました。そういう合宿に私も何度か参加させてもらって、選手たちがこれだけ命を懸けて全力を注いでオリンピックに挑んでいるんだというのを知った時に、じゃあ私には何ができるのか、私はどういう気持ちでこのオリンピックというものに臨んでいくべきなのか、非常に悩みました。

嶋崎 川崎さんご自身の話に進む前に、セブンズについてやオリンピックのことで何か質問があれば。

安藤 ラグビーをされる前はどのようなスポーツをされていたのですか？

川崎 小学校ではテニスを、中学ではダンス部に入っていました。

安藤 だから姿勢がいいんですね。

川崎 玉川学園ではデンマーク体操を習ったりするので、そういう部分で姿勢はいいのかなと思います。今回私がオリンピックに選ばれたと理由に見栄えがいいというところがあって、それは小さいころから授業でやらせていただいたデンマーク体操などが、今の姿勢の良さにつながっているのかと思います。

中塚 玉川学園高等部の時はマネージャー、そして3年生でプレーを始め、大学に入ったらたった一人の女子部員、どうやって練習するんですか？

川崎 男子と全く同じ練習をします。フィットネスもFWの選手と同じタイム以内に入らなければ罰則もありました。コンタクトも、コンタクトスーツをつけて、ちゃんとヘッドキャップをかぶってマウスピースもつけて、男子の選手にぶつかっていく練習はしました。今、本当にありがたかったなと思うことは、大学の監督やスタッフ、選手みんなが、私を女子として扱うことは一切なく、自分たちの仲間、部員として扱ってくださったので、甘えも許されなかったし、そういう環境の中で1年間死に物狂いでできたので、負けず嫌いな部分とかができたのかなって。

中塚 怪我してしまった場面は、男子との練習の場面ではなく、女子の大会に出たとき。

嶋崎 帝京大学の練習はいたってシンプルです。難しいことはやってないです。シンプルなことを繰り返し、それを全力でやるというのが帝京大学のやり方なので。短い1分ぐらいのドリルを次々次々やっていくんです。だから、能力が高い必要はあまりない。だけど、それを真剣にやるから激しいですよ。高校生でも十分できる練習です。

川崎 できます。

吉原 サッカーの世界では、4級、3級、2級と上がっていく中で、走力のテスト、例えばシャトルランとか12分間走とかがあって、それにパスしないとだめなのですが、ラグビーのレフリーがC、B、Aと上がっていく道筋はどうなっているのですか？

川崎 ラグビーのレフリーは、一番下はC級で都道府県協会公認。その上にB級があって、それが三地域協会と呼ばれる関東、関西、九州協会公認。その上にA級があるのですが。C級の時は、フィットネステスト、マルチ・ステージ・フィットネスがあって、私の時には65を超えていればクリアと言われました。プラス、あとは筆記試験をします。これが50点中45点以上でないと合格ができない。C級からB級に上がる時には、それぞれの県からまず推薦をいただいて、関東なら関東の各県からくるレフリーで認定講習会があって、そこでもマルチ・ステージ・フィットネスが72以上、筆記試験が45点以上、あとプラス実技試験があります。その3つの試験の成績がトータルされ、1位から順に順位付けもされて認定されます。私はB級試験がトップ合格だったので、三地域の中で比較的いい試合を担当させていただきました。BからAに上がる時には、男性のレフリーの方と女性レフリーでは少し基準が違って、女子の場合は推薦でA級に上がれるようになっています。ただ、男性のレフリーの場合は非常に難しく、フィットネステストも非常に高い数字をクリアしないとダメなかつたりとか、ある程度B級での試合経験がないと推薦されることもなく、とても狭き門になっています。

嶋崎 システムは一緒なのですが、とても早い年限でなっておられることに疑問を持っておられると思うのですが、それはアカデミーという制度があって、これは男子もあるのですが、今は若手のレフリーを育てるために日本協会が資本を投下して教育を徹底して早く育てる。年限をかけるとトップになったときに40歳くらいになっている。そうするとだんだん走れなくなってくるんです。20代でトップレフリーにというのが、今の日本協会の考え方です。アカデミーレフリーは男子でも20代でトップレフリーがいます。我々のように仕事をしながらレフリーをやっていると吹ける試合の数も限られてくる、受けられる研修の数も限られてくるので。簡単に言うとレフリーもポイント制なのです。テニスのランキングなどと一緒に。レフリーも都道府県協会ごとにランキングがあって、各自持ち点があります。持ち点は試合のパフォーマンスなのですが、たくさん吹かないとポイントがたまらない。我々のように教員をやりながらチームの指導もしていると、そんなに数吹けないですね、自分のチームもありますから。そうするとなかなか上に行くのは難しいということで、レフリーが育たない。そこで、その問題を打開するためにアカデミー制度を導入して、プレーヤーから即レフリーに、あるいは学生のうちからレフリーでやっていくというような形でレフリーを育てようというのが、今のラグビー界の考え方です。選手はもうプロですから、レフリーも教員が片手間にやっていたのではレベルが追い付かないのです。レフリーもプロにならなければ。日本協会公認レフリーはAが6人、A1が15人、A2が5人、女子が2人、合わせても30人いません。だから、今は早く育てるようにシステムを変えて、毎週毎週呼んで、研修をして、試合を吹かせてということを協会がやっています。

吉原 フィットネステストはかなり厳しいですね。

川崎 そうですね。Yo-Yoテストなどは世界基準が求められているので、女子で16-5、男子は18-1ないとダメだとアカデミーでは言われています。レフリーアカデミーで今求められているのは、20以上です。サッカーの世界と同じで、走れる人でないと世界では受け入れられていません。

4. リオ・オリンピックのレフリーの選出について

リオのオリンピックのレフリーに選出されるためには、2年間から4年間セクターの方に見ていただいて、そこから選出されます。ワールド・セブンズ・シリーズなどの大会に参加して、レフリングの技術や性格、生活面なども含めた評価で決まりました。この生活面や性格のことですが、トップのレフリーマネージャーの方から「私たちが見て生活面がしっかりしている人、周りの人としっかりコミュニケーションが取れる人しか選んでいない」と言われました。選考の中には男女それぞれ30名近いメンバーがいましたが、その中から12名ずつ選ばれました。開催国からは、アシスタントレフリーとして2名が選ばれています。右が男子のレフリーの方々です。ラグビーをあまり見られたことがない方にはわかりにくいのですが、クレイグ・ジュベールさんという方がいて、この方は15人制のラグビーでも有名な方で、世界でもトップレベルの方です。15人制と7人制では、その特性が大きく異なっていて、レフリングの仕方も全く違うものになっています。その例としては、笛を吹くタイミングがセブンズの方が早かったり、あとはマネジメントで声をかけることがセブンズではほぼありません。15人制では反則をさせないように選手とコミュニケーションを取ることが多いのですが、セブンズでは反則が起きた瞬間に笛を吹くのが大きな特徴になっています。そういった意味でも、15人制の方がセブンズの大会に選ばれるのは非常に珍しいことです。後列の右から3番目の方は日本の大槻卓さんです。この方は日本協会公認のA級の方で、現在、豊田自動織機にお勤めです。この方も、もともとは教員をされていたのですが、レフリーとの両立が非常に難しかったために教員を辞めて、レフリーとして活動をさせてくれる豊田自動織機に転職をされました。



左が女子のレフリーです。アジアからは、香港のガブリエル・リーさんと私が選ばれています。女子レフリーでは、この中の3名の方がプロレフリーとして各国で活躍されています。世界の中でも女子レフリーとして生計を立てていくことは非常に難しく、この3名の方以外は皆さん、たとえば精神科医とか、教員とか、様々な職業の方がレフリーを兼任でやられています。ここにいるレフリーの国籍を合わせると13か国から来ています。いろいろな国から来ていて、いろいろな文化を持ってきているので、こうして大きな大会に男女そろって集まると、

毎日新しい発見があり、そういった意味でも勉強ができる場になっています。

私たちは、7月29日～8月3日アルゼンチンのロザリオでプレキャンプをしました。目的としては、リオ前にレフリーチームとして団結をするということです。内容は、フィットネストレーニング、ジムセッション、レフリングの基準合わせ、チームビルド、テクニカルセッション、そして最後にアポイントメントが発表されます。

少し小さくて見にくいのですが、右が私たちに事前に配られるスケジュールです。ほぼ毎日、ミーティングがあったり、セッションがあったり、休む時間はほぼありませんでした。これは、体を慣らすためでもあり、またチームでずっと一緒に行動することによって、それぞれが持つ思いを一つにまとめようということもあって、ほぼ一人になる時間はなかったなど、今振り返ると思います。

Pre-Olympic Sevens March Official Camp July 29-Aug 3 Results

Day	Activity	Notes
July 29	Arrival & Registration	Check-in, room assignment, initial briefing.
July 30	Team Building & Fitness	Group activities, physical conditioning.
July 31	Technical Sessions	Referee training, rule discussions.
Aug 1	Practice Matches	On-field experience, feedback.
Aug 2	Final Preparations	Equipment check, final team meeting.
Aug 3	Departure	Travel arrangements, final check.

私たちはレフリーと、パリー・オブライアンというトップのレフリーマネージャーとS&Cのコーチが1名、テクニカルコーチが2名という非常に少ないスタッフで、このプレキャンプとリオの本大会を行いました。

ここで一つ映像を見ていただきます。この映像は、プレキャンプが終わるときにパリーから渡されたものです。このカッコいい映像を静かにみていると続きがあって、今回選ばれたレフリーみんなに向けてのメッセージが流れます。アルゼンチンの合宿が本当につらかったので、明日リオに移動するぞという時には、ワクワクというより、みんな疲れ切った状態にあったのですが、最後の最後にこれを見せられて、もう涙を流す人もいるし、やっぱりこれを見て4年間自分たちがやってきたことなどを振り返って涙する人もいました。そういう部分ではうまいなど、ワールドラグビーからの一つのプレゼントだったのかなと思いました。

最終日にアポイントメントが発表されました。こういう形式でそれぞれの手元に送られてきます。私は最終日に女子の決勝のインゴール・ジャッジを担当させていただきました。2020年には東京オリンピックが待っているということもあって、期待も込めて選んでいただきました。

5. リオで見たこと、感じたこと

話は前後しますが、リオ五輪は8月3日から12日まで行われました。女子の競技は6日から8日まで3日間、男子がその後9日から11日まで3日間です。会場はブラジルのデオドロスタジアムです。3か月前までは観客席が一切ないところでした。直前になって「やっとできたよ」ということでこの写真が配信され、みんな「よかった、観客席はあるんだ。でも、屋根はないんだ」ということで、本当に驚かされたのを覚えています。



実際、今回オリンピックに行ってみてビックリしたことが、そんなに警備が厳しくないことです。このスタジアムがある町はARMYの基地があるところなので、そこらじゅうに銃を持った軍人の方が歩いてはいるのですが、本当にその銃は使えるのというようなフワフワした感じで、正直危ないなと感じました。

〈すみません。ここで音声途切れてしまいました。〉